

<報告>

## 中国で日本語教育シンポジウム

劉麗

中日国交回復20周年に際し、さる10月21日～23日、「中国人・日本語を学ぶ」シンポジウムが、紅葉の見所として知られる、北京の香山の麓にある臥仏寺飯店で催された。本シンポジウムは、中国日本語教育研究会と日本国際交流基金との共催で、日本駐中国大使館、日本国際文化フォーラム、中国国家教育委員会及び北京外国語学院などの後援を得、盛大に行われた。参加者は、中国各大学の日本語の先生で、およそ40校から60余人が集まり、それぞれ日本語教育の現場で得た最新データによる研究論文を発表し、盛んに議論したり、検討したりした。

日本国際交流基金の代表として、国立国語研究所の水谷修所長及び森田良行教授が特別講演に招かれ、それぞれ、「日本語の現状—話しことばの問題」、「日本語の表現」について、日本からの最新情報を参加者に伝えられた。今日、もはや日本人だけの日本語ではなくなった時代を迎え、国際的、地球的な日本語としての日本語教育、日本語研究を共同で押し進めていくことは、中日両国の学者たちのこれからの重大な課題であると、両先生からのご期待を胸に抱きつつ、参加者は各地の日本語教育現場へ戻った。

(Liu Li：廣州外語学院)